第五講『平家物語』

次の文章は、『平家物語』の一節である。三位中将（さんみのちゅうじょう）、平重衡（たいらのしげひら）は、源氏との戦いに敗れ、捕えられて都に移送された。重衡に仕える木工右馬允知時（もくうまのじょうともとき）という武士が、捕われの身となった重衡のもとを訪れた。文章を読んで、問一～六に答えなさい。

三位中将の年ごろ召しつかはれける侍（さぶらひ）に、木工右馬允知時といふ者あり。八条の女院（にようゐん）に候（さぶら）ひけるが、土肥次郎（とひのじらう）がもとにゆきむかつて、「是（これ）は、中将殿に先年召しつかはれ候ひし某（それがし）と申す者にて候ふが、西国へも御供仕（つか）まつるべき由存じ候ひしかども、八条の女院に兼参（けんざん）の者にて候ふ間（あひだ）、力及ばでまかりとどまつて候ふが、今日大路で見まゐらせ候へば、目も当てられず、いとほしう思ひ奉り候ふ。しかるべう候はば、御許されを蒙（かうむ）つて、近づき参り候ひて、今一度見参（げんざん）に入（い）り、昔語りをも申して、なぐさめまゐらせばやと存じ候ふ。させる弓矢とる身で候はねば、いくさ合戦の御供を仕まつりたる事も候はず。ただ朝夕伺候（しこう）せしばかりで候ひき。さりながら、なほおぼつかなう思しめし候はば、腰の刀を召し置かれて、まげて御許されを蒙り候はばや」と申せば、土肥次郎なさけある男（をのこ）にて、「①御一人ばかりは何事か候ふべき。さりながらも」とて、腰の刀をこひとつて入れてんげり。右馬允なのめならず喜んで、急ぎ参つて見奉れば、まことに

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

思ひ入れ給へるとおぼしくて、御姿もいたくしをれかへつて居給へる御有様を見奉るに、知時涙もさらにおさへ難し。三位中将も是を御覧じて、夢に夢見る心地して、とかうの事ものたまはず。ただ泣くより外(ほか)の事ぞなき。やや久しうあつて、昔今の物語どもしたまひて後、「さても②なんぢして物言ひし人は、いまだ内裏にとや聞く」。「さこそ承り候へ」。「西国へ下りし時、文をもやらず、言ひおく事だになかりしを、世々のちぎりはみな偽(いつはり)にてありけりと思ふらんこそ(A)はづかしけれ。文をやらばやと思ふは。尋ねて行きてんや」とのたまへば、「御文を賜(たま)はつて参り候はん」と申す。中将なのめならず喜んで、やがて書いてぞたうだりける。守護の武士ども、「いかなる御文にて候ふやらん。いだしまゐらせじ」と申す。中将「見せよ」とのたまへば、見せてんげり。「くるしう候ふまじ」とて(a)とらせけり。

知時もつて内裏へ参りたりけれども、昼は人目のしげければ、その辺(へん)近き小屋に立ち入つて、日を待ち暮らし、局(つぼね)の下口(しもぐち)辺にたたずんで聞けば、この人の声とおぼしくて、「いくらもある人のなかに、三位中将しも生け取りにせられて、大路をわたさ(b)るる事よ。人はみな奈良を焼きたる罪のむくいと言ひあへり。中将もさぞ言ひし。『わが心におこつては焼かねども、悪党おほかりしかば、手々(てんで)に火を放つておほくの堂塔を焼きはらふ。末(すゑ)のつゆ、本(もと)のしづくとなるなれば、

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

われ一人が罪にこそならんずらめ』と言ひしか。(B)げにさとおぼゆる」とかきくどき、さめざめとぞ泣か(c)れける。右馬允、③是にも思はれけるものをといとほしう覚えて、「もの申さう」と言へば、「いづくより」と問ひ給ふ。「三位中将殿より御文の候ふ」と申せば、年ごろは恥ぢて見えたまはぬ女房の、せめての思ひのあまりにや、「いづらや、いづら」とてはしり出でて、手づから文をとつて見給へば、西国よりとられてありしありさま、今日明日とも知らぬ身のゆくゑなんど、こまごまと書きつづけ、奥には一首の歌ぞ有りける。

(C)涙河うき名を流す身なりともいま一たびのあふせともがな

女房これを見給ひて、とかうの事ものたまはず、文をふところに引き入れて、ただ泣くより外の事ぞなき。

〔注〕
○三位中将――平重衡（一一五七〜一一八五）の官職。
○木工右馬允知時――「木工右馬允」は知時の官職。
○八条の女院――鳥羽天皇皇女、暲（しょうし）子内親王（一一三七〜一二一一）。
○兼参――三位中将と八条女院の両方に仕えていること。
○たうだりける――「たびたりける」の音便形。
○奈良を焼きたる罪――治承四年（一一八〇）、平重衡らが敵対する奈良の東大寺、興福寺などを焼き討ちにした事件。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

○悪党――暴徒化したやから。

問一　傍線部①、②、③を現代語訳しなさい。

①＝

②＝

③＝

問二　二重傍線部（a）は、誰が何を「とらせ」たのか、答えなさい。

が　　　　　　　を

問三　二重傍線部（b）、（c）を、例にならって文法的に説明しなさい。

例　召しつかはれ候ひし‖　↓　過去の助動詞の連体形

（b）＝

（c）＝

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

問四　傍線部（A）は、誰のどのような気持ちか、状況をふまえて具体的に説明しなさい。

問五　傍線部（B）を、「さ」が指す内容を明らかにして、現代語訳しなさい。

問六　傍線部（C）の歌に込められた三位中将の心情を、五〇字以内で説明しなさい。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

第五講　復習問題

①「いとほしがりて」の説明として、最も適当なものを次の中から選べ。

ア　敦行を気の毒に思ったということ
イ　親子が互いにいたわりあう姿に打たれたということ
ウ　競技が台無しになったのを残念がったということ

②「何事かあらむ」の意味の説明として、最適なものを次の中から選べ。

ア　反実仮想で、「もしもそんなことをしたなら、大変なことになってしまう」という意味である。
イ　反語で、「何か不都合なことがあろうか、いや、ない」という意味である。
ウ　推量で、「必ずや重大な外交問題に発展するだろう」という意味である。

③「やがて」の意味として最も適切なものを次の中から選べ。

ア　すぐに　　イ　そして　　ウ　ややあって　　エ　知らぬうちに

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

④「この者どもに養はれて行きけるほどに…」の傍線部の文法上の意味は何か。最も適当なものを次の中から選べ。

ア　受身　　イ　可能　　ウ　完了

エ　尊敬　　オ　自発

Ⓒ RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

第五講　模範解答

問一　①　あなたお一人ぐらいは、どうして刀を持っていて不都合〔危険〕なことがございましょうか、いや、ございません
②　お前〔あなた〕を遣わして、恋文を渡した人〔女房〕は、まだ宮中にいると聞いているか
③　この女性〔女房〕にも、重衡様は慕われていたのになあと、気の毒に思われて

問二　守護の武士たち〔ども〕が　平重衡の手紙〔中将の文〕を

問三　（b）受身の助動詞の連体形
（c）尊敬の助動詞の連用形

問四　重衡の、自分が西国へ下る時、言い寄っていた女性に手紙や伝言さえしなかったので、その女性が、自分の様々な愛の言葉や約束は全て偽りだったのだと思っているだろうことを恥ずかしく思う気持ち。

問五　本当に、重衡様が捕えられているのは、世の人や重衡様本人が言っていたとおり、奈良の寺々を焼き討ちにした罪の報いだと私も思われる

問六　今はこうして囚われの身で醜聞をさらしてつらい身の上となったが、もう一度あなたに逢いたいという心情。
（四十九字）

〔現代語訳〕

三位中将〔＝平重衡〕が長年召し使いなさった従者に、木工右馬允知時という者がいる。（知時は）八条の女院にお仕えしていたが、土肥次郎のもとに出向いて、「私は、中将殿に以前召し使われていました誰それと申す者ですが、（中将殿が都落ちした時に）西国へもお供申し上げようということを考えましたが、（私は）八条の女院にも同時にお仕えする者ですので、力が及ばず（都に）残っていますが、今日大路で（捕えられている中将殿を）拝見しますと、正視もできず、気の毒にお思い申し上げます。できますことなら、お許しをいただいて、近くに参上しまして、もう一度お目にかかり、昔の話でも申し上げて、お慰め申し上げ

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

たいと思います。（私は）たいした武士ではございませんので、合戦のお供をいたしたこともございません。ただいつもおそばにお仕えしただけでした。そうではあるが、やはり気がかりにお思いになりますならば、（私の）腰の刀を取り上げてお預かりくださって、ぜひお許しをいただきたいのです」と申し上げると、土肥次郎は情け深い男で、「（あなた）お一人ぐらいは（どうして刀を持っていて）不都合（＝危険）なことがございましょうか、いや、ございません。そうではあっても（念のために）」と言って、腰の刀を求めて預かって（知時を中将の部屋に）入れた。右馬允（＝知時）は並々でなく喜んで、急いで参上して（中将を）拝見すると、本当に思いつめなさっていると見受けられて、お姿もひどくすっかりしょんぼりとして座りなさっている（中将の）ご様子を拝見すると、知時は涙もまったくこらえることができない。三位中将もこれ（＝知時）を御覧になって、夢の中でまた夢を見るような感じがして、あれこれのこともおっしゃらない。ただ泣くばかりである。かなり長い時間が経って、昔や今の話などをなさった後、（中将が）「それにしてもお前を遣わして恋文を渡した人（＝女房）は、まだ宮中に仕えていると聞いているか」（と尋ねる）。（知時が）「そうお聞きしています」（と答える）。（中将が）「（私が）西国へ下った時、手紙もやらず、言い残すことさえなかったので、（私が彼女と交わした）現世だけでなく来世も一緒になろうという約束はすべて偽りであったのだなあと（彼女が）思っているであろうことが恥ずかしいことだ。手紙をやりたいと思うよ。探して行ってくれないか」とおっしゃるので、（知時が）「お手紙をお預かりしてまいりましょう」と申し上げる。中将が並々でなく喜んで、すぐに書いてお渡しになった。警護の武士たちが、「どんなお手紙でございましょうか。（このままあなたをここから）出し申し上げるわけにはいかない」と言う。中将が「見せてやれ」とおっしゃるので、（知時は）見せた。（武士たちは手紙を見て）「差し支えないでしょう」と言って（手紙を知時に）渡した。

　知時は（その手紙を）持って宮中へ参上したが、昼は人目が多いので、そのあたりに近い小屋に入って、日が暮れるのを待って、（女房の）部屋の裏口あたりにたたずんで聞き耳を立てると、この人（＝女房）の声と思われて、「いくらでもいる人の中で、（よりによって）三位中将が生け捕りにされて、大路を引き回されることよ。世間の人はみんな奈良（の寺）を焼いた罪の報いだと言い合っている。中将もそう言っていた。（中将が）『自分の心に（考えが）起こって焼いたのではないが、（配下に）暴徒化したやからが多くいたので、それぞれ勝手に火をつけて多くの堂や塔を焼き払う。葉末の露が（集まって）、幹の雫となるというから、私一人の罪になるだろう』と言っていた。なるほどそのとおりと思われる」とくどくど言い、さめざめと泣きなさっ

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

た。右馬允は、この女房にも（中将殿は）慕われていたのになあと気の毒に思われて、「申し上げます」と言うと、（女房は）「どこから」と尋ねなさる。（知時が）「三位中将殿からお手紙がございます」と申し上げると、長年恥ずかしがって姿を見せなさらない女房が、切実な思いのあまりであろうか、「（手紙は）どこなの、どこ」と言って走り出てきて、直接自分で手紙を受け取って見なさると、西国から捕えられてきた様子や、今日明日ともわからない我が身の前途など、こまごまと書き連ね、最後には一首の歌があった。

涙河……＝涙が河のようにたくさん流れるほど、つらい評判を世間に広めている我が身であったとしても、もう一度あなたに逢う機会があればなあ。

女房はこれを見なさって、あれこれのこともおっしゃらず、手紙を懐に入れて、ただ泣くばかりである。

〔重要単語〕

○としごろ【年頃】…**数年来**。

○いとほし…①**気の毒だ**。　②いやだ。　③かわいい。

○おぼつかなし…①**はっきりしない**。　②**気がかりだ**。　③**待ち遠しい**。

○なのめならず【斜めならず】…**並一通りではない**。**格別である**。

○やがて…①**そのまま**。　②**すぐに**。

○げに…①現実に。　**なるほど**。　②**ほんとうに**。

○うし【憂し】…①**つらい**。　②**いやだ**。　③にくい。　④つれない。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

復習問題　第五講　解答解説

〔解説〕

① 「いとほし」は、重要単語で「気の毒だ」の意味。よって、正解はア。

② 係助詞「か」は、「疑問」か「反語」。選択肢に「疑問」がないので「反語」だとわかるが、「何事」と**疑問と一緒に使用しているの**で、万一「疑問」があっても**「反語」から考える**のがポイント。正解はイ。

③ 「やがて」は、重要単語で「すぐに・そのまま」の意味。よって、正解はア。

④ 上が**a段**（＝四段活用動詞の未然形）なので、**助動詞「る」**と判明。「**～に**」と書いてあるので「**受身**」の意味である。
よって、正解はア。

〔解答〕

① ア　② イ　③ ア　④ ア

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。